

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292000013		
法人名	社会福祉法人 愛仁会		
事業所名	グループホーム恵天堂		
所在地	千葉県旭市蛇園2532-9		
自己評価作成日	平成23年1月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成25年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム恵天堂は、高台に位置し眺望の良い心安らぐ環境にある。広い敷地内には恵天堂特別養護老人ホームや江畑医院、多くの介護保険事業所が併設され、多様なサービスの提供が可能である。ホーム職員7名は、特別養護老人ホームの経験があり、認知症高齢者の介護については経験豊富である。また全員常勤職員で従事している。更に訪問看護ステーションとの連携のもと、利用者にとって介護・医療ともに安心して生活ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム恵天堂」のある敷地内には、同法人経営の医院・特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・訪問介護事業所・訪問看護事業所等の様々な事業所がある。法人として多方面にわたりサービスの提供が行えるよう協力体制が構築されていると共に、終末期や重度化した場合においても、医師・看護師・関係機関等と利用者・家族の要望に臨機応変に対応できるよう連携を図っている。体験学習・実習生・ボランティアの受け入れ等を積極的に行う等の地域貢献に努め、地域住民からは理解・協力が得られている。また、法人主催の催し物への近隣住民の招待・幼稚園児との交流等、地域・世代間交流にも取り組んでおり、施設の理解促進や入居者の生活の活性化に繋げている。旭市グループホーム連絡会の発足に伴い、市と他の事業所との意見交換・情報交換の場が確保され、共に地域の問題解決に向けた協働体制を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に、職員全員で作り上げた理念は、玄関とスタッフルームの見やすい場所に掲示し理念の共有とサービス向上に心がけている。	「尊厳ある暮らしの中でご利用者様の個性を生かし、心身共に健やかに満足のある快適な生活を共に歩みます。」を主眼とした、法人としての理念を掲げている。理念を施設内に掲示し、職員や来訪者に周知を図っていると共に、研修時に理念について確認を行い、理念実現を目指したサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	旭市文化祭、産業祭等地域行事への参加。地元自治会での夏祭りには、事業所全体で参加。 地域住民と交流を深めている。	日頃から地域住民とは挨拶を交わすと共に、施設主催行事への招待や来訪者の受け入れ等、地域とは良好な関係が築かれている。地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れを行い、施設の理解促進・入居者の生活活性化に取り組んでいる。また、中学生の体験学習や実習生の受け入れを行う等、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア慰問時に短時間ではあるが、身体拘束、介護保険、認知症等について勉強会を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市の介護保険担当者や役員、家族の参加により事業報告、現況報告、意見交換がされている。(会議録有)	市役所職員・入居者家族・施設職員等を構成員として、年3回、運営推進会議を開催している。会議では、施設活動報告・意見交換等を行い、施設の理解促進に努めると共に、挙げがった意見・要望はサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	旭市高齢者福祉課主催の地域ケア会議への参加。 入居者、待機者名簿を毎月1回市担当者へ提出している。	市とは、定期的な日常業務の報告・連絡・相談や運営推進会議への出席依頼等を通じて、協力関係が構築されている。旭市グループホーム連絡会の立ち上げにより、市と他の事業所との意見交換・情報交換の場が確保され、協働体制の強化を図ると共に、相互にサービスの質の向上に取り組む体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修へ積極的な参加をしている。身体拘束廃止委員会の設置。 玄関前は車両が通過するため、安全を第一に考え施錠しているが入居者の状況によっては開錠していきたい。	身体拘束排除におけるマニュアルを整備していると共に、内部・外部研修を実施しており、全職員が身体拘束排除に取り組んでいる。また、法人内に委員会を設置し、必要に応じて事例に基づいた検討会議を実施する等、適切な支援に向けて取り組んでいる。玄関は安全面に配慮し施錠をしているが、家族等へ説明し理解が得られていると共に、職員による見守り方法の徹底や入居者の状況把握・迅速な対応方法の確認等で、入居者の安全で自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝・夕の引き継ぎ時、虐待について職員間で確認をしている。 千葉県高齢者権利擁護、身体拘束廃止研修を3名が終了している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居前より1名の入居者が地域権利擁護事業を利用。 日本社会福祉会を通じて、通帳管理をしており、月2回の支援員の訪問がある。今後も活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、入居前にご家族、ご本人に直接面話し説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族参加や行事、面会などを通じて、できるだけ意見交換の機会を作っている。 苦情相談窓口の設置。	意見箱の設置・家族の面会時・運営推進会議等を活用し、家族の意見や要望を確認している。定期的に入居者の日常生活状況等を新聞やお便りにて送付しており、家族とコミュニケーションを図りながら、意見や要望が言い易いような環境作りを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り後に職員は、意見や提案する時間がある。 管理者は理事長会議や主任者会議に出席し意見を交換している。	定期的に会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認する機会を設けていると共に、挙げた意見・要望・情報は会議等にて検討し、運営や日々の支援に反映させている。日頃から管理者が職員とコミュニケーションを図り、意見・要望・疑問等を表現し易いような職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望を取り入れ、働きやすい環境づくりに努めている。 福利厚生として、法人全体での納涼会や忘年会、職員旅行等があり、リフレッシュできるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修への参加を積極的に行っている。研修内容の共有、資格取得の推進。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に加入や千葉県認知症研究会への参加。又、高齢協主催の研修等に参加している。海浜地区に於ける認知症勉強会への参加を通じて近隣のグループホームとの交流の場にもなっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が傾聴を心がけ、利用者が安心できるよう情報を共有し、統一したケアを実践し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時、相談受付表をもとに聞き取りし不安や要望を表出しやすくしている。 契約時には、契約書、重要事項説明書の十分な説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設で特養、デイ、在宅、訪問看護があり、多様なサービスの提供が可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしていく中で、利用者の生活習慣や知識から学ぶことも多く個々にあった役割や手伝いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回家族参加の行事があり、家族と職員また家族同士の交流の場になっている。 問題発生時には、家族と話し合いの解決を見いだすようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊、電話等いつでもできるよう対応している。入居者が家族の同意を得て、入居者の知人や友人等馴染みの人や場所へ外出することもある。	一人ひとりの希望に応じた場所への外出を支援すると共に、知人・親戚との行き来や電話等のやり取り等も支援しており、馴染みの場所や人との関係継続に努めている。家族との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続に配慮している。また、お墓参り・初詣・地域行事への参加等、生活習慣を尊重した外出支援にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ボール投げやかるた等を楽しみながら交流を深められるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等になった場合には、面会に行ったりご家族と連絡をとりあい関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なケースカンファレンスを行い、職員全員が共有できるよう記録したケースファイルは見やすい場所に置いてある。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認すると共に、必要に応じて医師や他の事業所からも情報を収集し、より詳細な情報の把握に努め、記録している。入居後は会議等で意見・情報交換を行うと共に、本人本位に検討しながら、情報や意向の把握に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活記録に家族構成や病歴、身体状況、ADL状況、IADLを記録し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、朝・夕の勤務交代時に情報の共有ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを行いケアプランへ反映させている。 定期以外にも状況に応じて、カンファレンスを行いケアプランの変更をしている。	会議等にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に目標達成状況の確認や評価を実施し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。家族からの意見・要望は随時確認しており、入居者・家族の意向が反映された介護計画の作成に努めると共に、常に個別のファイルを全職員が確認できるように設置場所等にも工夫を凝らし、支援内容の共有化に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな生活の様子、言動、体調の変化を個別に記録して職員間で共有している。 変化がある場合は、ケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している事業所があるので、それぞれの事業所と職員の協力体制が整い柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り等のイベントに参加し、季節感を満喫し、精神的な豊かさを楽しむことができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医の受診継続、緊急時は協力病院を家族の承諾のもと受診できるようにしている。	希望ののかかりつけ医への受診が可能となっており、必要に応じて職員が付き添い支援を行っている。隣接の病院と提携し、医療・健康における相談や受診等を行い、適切な医療支援・健康管理が行われていると共に、緊急時・重度化における適切な対応が図られるよう協力体制が構築されている。他にも、同法人の訪問看護師と緊急時や医療全般におけるアドバイス・24時間の協力体制・家族への状況報告・職員との情報の共有化等、医療面における連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連絡を密にし、受診介助等を通じて医師との連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後も安心してホームで過ごせるような体制を作るために、主治医や医療関係者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後に家族への看取りの指針の説明。重度化した場合は、ご家族と主治医が医療関係者と連絡を取り合っている。	重度化・終末期における施設方針・マニュアル・同意書を作成しており、契約時に本人・家族への説明が行われており同意も得ている。終末期や重度化した場合には、家族の意向を確認し、医師・看護師・関係機関等と話し合いを行い、支援内容を臨機応変に組み替えながら、入居者・家族から安心・納得が得られるよう取り組んでいる。また、必要に応じて医療機関や他のサービスの切り替えが円滑に行えるよう、協力体制の構築を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成されており、職員間で常に応急手当等を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月15日と日程を決め、ホーム内防災訓練（避難訓練）を行っている。また当法人全体の消防訓練時には、施設職員も一緒に参加している。 火災通報専用電話機の設置。	非常災害時におけるマニュアルの整備されていると共に、火災報知機・自動通報機等が設置されている。年3回、併設の特別養護老人ホームと合同で消防避難訓練を実施しており、併設施設との連携強化や避難方法の確認を行っている。一昨年は大震災時に地域全体が大被害に合っていることから、防災訓練を毎月実施し、非常時に備え適切な対応方法の習得に向け取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室、洗面、トイレ付きの居室で鍵がついているため一人の時間を大切にしている。 入浴時は、一人でゆっくり十分な時間をとっている。	プライバシー保護に関するマニュアルの整備や研修が実施されており、プライバシーに対する意義や理解を職員全員が共有していると共に、居室には鍵が設置されており、プライバシーへの配慮も行われている。接遇においては、個人尊重の対応に心掛け、その人に合った言葉使いや相手の立場に立った対応方法等を指導し、入居者一人ひとりに合わせた適切な支援が行えるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定できるよう促し、職員が希望を聞くなどして、表出しやすい状況をつくる努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一日の生活の流れの中で、天候や気分、体調によりひとりひとりに合った快適で緩やかな時間が過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室に行き、カラーやカットをしたり、好みの衣類や雑貨等を購入し、身だしなみやおしゃれ等を楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力を活かしながら米とぎやおかずの盛り付けなどを手伝ってもらっている。 味噌汁作りでは入居者と具材を考えながら作っている。	入居者の希望・能力に応じて、食事の準備・盛り付け・後片付けを職員と共同で行っている。食事は併設の特別養護老人ホームにて用意されており、栄養士による栄養バランスに配慮され、入居者の希望や季節感を取り入れた食事提供がなされている。入居者の希望を取り入れた味噌汁やおやつ作り・菜園の野菜を活用等、台所や調理を忘れないよう配慮すると共に、入居者の身体状況に合わせたメニューや調理方法の工夫等を行っている。家族が参加できる外食会や行事食・特別食等を実施しており、様々な食の楽しさを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に細かく食事、水分量の記録をしている。存在歯や嚥下状態によっては、食べ物の大きさや固さ調理方法など、とろみをつけたり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後の口腔ケア、義歯装着は夜間ポリドント洗浄を行っている。 イソジン等でうがいをを行い病気の予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録から排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。 布パンツ、パット、リハビリパンツを入居者に合わせて行っている。	排泄チェックリストや生活リストを活用しながら個々の排泄パターンの把握に努め、適切な声掛けや一人ひとりに即したトイレ誘導を行い、オムツ・パットの使用頻度の軽減に努めている。トイレ使用においては、全居室にトイレ・洗面台が設置されており、プライバシーを尊重しながらさりげない見守りにて支援すると共に、紙パンツやパット類についても日常活動に配慮しながら、入居者本位で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調に合わせたおやつや水分提供、ラジオ体操、散歩などを行っている。		

【千葉県】グループホーム 恵天堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行い朝のバイタルチェック等を考慮して、体調に合わせた対応を行っている。 入浴時には、入浴剤を入れたり、冬至にはゆず湯にしたり、季節を楽しめるよう支援している。	入浴においては毎日実施されているが、入居者の希望・体調等に応じてシャワー浴・清拭等を取り入れ、入居者の清潔保持にも努めている。浴室には、転倒防止マットや手すり等が設置されており、入居者の安全確保がなされている。その他には、沐浴剤の活用や季節感を取り入れる等、入浴の楽しみが広がり、気分転換が図れるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は、布団干しを行い安眠できるよう心がけている。 ソファや畳を設置して居室以外でも、休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人に処方された薬の説明書が生活記録にファイルされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭に畑を作り、手入れや収穫、それぞれの経験を活かし楽しみながらできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に行事を企画して外出する機会を多く設けている。利用者の希望により、個別に行きたい所へ外出している。 夜間帯に外出願望がある入居者には、朝礼で申し合わせて日勤者は本人が安定できるよう支援している。	入居者の希望・体調・天候に応じて毎日、散歩・買い物等の外出支援を実施している。定期的に入居者全員が参加できるように身体状況・季節等を考慮しながら、外出行事を企画・実施し、様々な戸外での楽しみを提供している。法人主催の行事や隣接のデイサービスで行われるボランティアによる催し物への参加等、外部の人達との交流の機会を作り、入居者の生活活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のうえ利用者に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、事務所内の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内全体を、季節を感じられる装飾をしている。 居室やトイレ、浴室等の場所以が混乱しないようネームプレートや場所の名称を書いた装飾をしている。	施設内はバリアフリーで、十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全確保がなされている。また、施設の所々にベンチを配置し、入居者が思い思いにくつろげるように配慮されている。入居者と職員が共同で制作した作品・季節に合わせた飾り・月毎にまとめられた外出時や行事等の写真が掲載されており、季節感を取り入れ楽しい雰囲気作りがなされている。また、施設の要所ごとに空気清浄加湿機が設置されており、健康面に配慮された心地よい空間となっている。他には、廊下やリビングに幼稚園児作成のカレンダーが掲示されており、世代間交流が楽しみとなるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に思い思いの時間が過ごせるようフロアーには、ソファや畳、廊下には、長椅子を設置し、ウッドデッキへも自由に出入りすることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を自由に配置できるようになっている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの品々を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良くその人らしい生活ができるように配慮されている。また、好み・生活歴・身体状況に応じて、絨毯・ベット・畳等の選択が可能となっており、一人ひとりの個性に合わせた居室作りがなされている。全居室にトイレ・洗面台・鍵・物入れ等が設置されており、プライバシーに配慮された造りとなっている。各居室にはベランダが設置され、外への出入りが自由になっており、入居者が気軽に外の風を感じる事ができる造りとなっていると共に、非常災害時の避難経路としても活用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや転倒防止のバーの設置や、室内でシルバーカーや杖等使用するので、バリアフリー設計や廊下の幅は、車椅子での走行にもゆとりがある。		